

3.まとめ			
検討項目	要	点	備考
	<p>本処分場におけるこれまでの調査・解析結果は、以下のように整理される。</p> <p>(1) 廃棄物の種類・分析結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物の種類：処分場内の廃棄物の種類は主に、 土壌・その他、 ガラス陶磁器クズ、 廃プラスチックで、全体の約9割を占める。 ・ 分析結果： 溶出試験・含有試験の結果、60 試料中2 試料で鉛が有害産業廃棄物の基準値 を超過。その他の試料は全ての項目で基準値以下である。 <p>(2) 地質・岩盤状況と透水性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地質状況：処分場下および周辺には頁岩が主に分布し、一部レンズ～層状の砂岩を薄く挟む。処分場の西側および東側にはチャートが塊状～層状をなして分布し、処分場の東側には幅 1m～10 数 m 前後のひん岩が高角度で貫入している。 ・ 岩盤状況：頁岩とチャートの地質境界部付近や西側山体・東側山体では、CL 級岩盤ないしは D 級岩盤が認められるが、全体的には新鮮・堅硬な CM 級以上の岩盤が分布する。 ・ 透水性：処分場下および周辺では、河床部や処分場南東部付近の一部で透水性の高い岩盤が分布するものの、その下および周囲には難透水性岩盤が連続して分布していることが確認された。 <p>(3) 保有水・周辺地下水の水位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保有水の水位：標高 140～150m 付近に位置している。 ・ 周辺地下水位：(処分場下の埋立土砂内) 標高 80～120m で、埋立土砂内に分布している。 (処分場周辺) 周辺山体では、標高 133～177m で水位が確認されており、処分場内および処分場下の土砂中の地下水位より高い位置にある。 <p>(4) 保有水、周辺地下水の水質特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保有水の水質：(健康項目) 水銀、ジクロロメタンおよびぼう素など、7項目が排水基準を超えている。 (その他の項目) BOD、SS、全窒素、n-ヘキサン抽出物質、フェノール類、溶解性マンガン、大腸菌群数およびダイオキシン類など、11項目で排水基準を超えている。 ・ 地下水の水質：pH、SS、n-ヘキサン抽出物質、溶解性マンガンおよびダイオキシン類など、10項目で排水基準を超えている。 ・ 河川水の水質：BOD、大腸菌群数を除き、環境基準を超えていない。 ・ 北陸トンネル排水の水質：すべての項目で環境基準を超えていない。 ・ 処分場周辺下流域の地下水水質：土壌由来の可能性が高い砒素、ふっ素を除き、環境基準を超えていない。 <p>(5) 処分場周辺の地下水流動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地下水流動状況：周辺(西・南・東側) 山体中の地下水は、処分場下(主に土砂内)に流下し、処分場北側の木ノ芽川へ流出している。 ・ 地下水流量：木ノ芽川への流出量は、年間平均値として約 3,270m³/日と見積もられる。 ・ 対岸への影響：木ノ芽川河床の砂礫層や表層の岩盤を通して、浸出水の影響を受けた地下水が一部対岸まで到達しているが、この地下水は、処分場のすぐ下流側で木ノ芽川に湧出していると考えられる。 ・ 北陸トンネルへの流出：北陸トンネル内の湧水からビスフェノール A が検出されていることから、浸出水の影響を受けた地下水が北陸トンネルへ流出していると考えられる。 <p>(6) 処分場の安定性の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安定解析結果：処分場は常時、地震時とも安定していることが確認された。 		<p>有害産業廃棄物： 「特定産業廃棄物に起因する支障の除去等に関する特別措置法」による基準値 (「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令(昭和48年総理府令第5号)別表第一」)を超過した有害物質を含む廃棄物などをいう。</p>